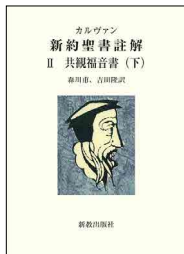




共観福音書(下) カルヴァン新約聖書註解Ⅱ

ジャン・カルヴァン著／森川甫、吉田隆訳

11月25日発売



福音書の「調和」を見出そうとしてマタイ・マルコ・ルカの三福音書を対観しながら註解する。改革者の聖書釈義の神髄を示す書。上巻から38年ぶりに完結。
*愛書家およびこのシリーズを上製函入で愛蔵している読者のために、上製(函入)を限定200部制作します。詳しくは専門書店にお問い合わせください。

既刊 共観福音書(上) 〈オンデマンド版〉 森川甫訳

- ◆ A5判・並製・470頁・定価6600円
- ◆ A5判・上製・470頁・定価7920円
- ◆ A5判・並製・531頁・定価6270円

旧約聖書入門4 現代に語りかける歴史書

大野恵正 著

11月18日発売

おの・よしまさ氏は活水女子大学名誉教授。新共同訳聖書の翻訳に関わった。定評のシリーズ第4弾。この巻は、ヨシユア記、士師記、サムエル記上下、列王記上下、歴代誌上下、エズラ記、ネヘミヤ記、ルツ記、エステル記を扱い、激動の歴史を通して顕される神の意思を解き明かす。 ◆小B6判・400頁・定価2090円



既刊

- 1 現代に語りかける原初の物語 ◆273頁・定価1980円
- 2 現代に語りかける父祖たちの物語 ◆368頁・定価2090円
- 3 現代に語りかける出エジプトと契約 ◆368頁・定価2090円

● 9 月 刊 行

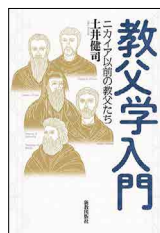
教父学入門

ニカイア以前の教父たち

土井健司著

◆四六判・定価 2420 円

使徒教父、弁証家、アレクサンドリアのクレメンスやオリゲネス、テルトゥリアヌスにキプリアヌス等、また古代文献に表れた女性たちも視野に収めながら、教父たちの世界へと興味深くいざなう、類書のない貴重な入門書。



● 9 月 刊 行

呻きから始まる

祈りと行動に関する 24 の手紙

栗田隆子著

◆四六判・定価 2200 円

信仰、そしてフェミニズムと出会う自らの歩みを辿る。登校拒否とシスターとの出会い、洗礼と教会、進学と恋愛、研究への失望と就職の困難、運動と組織などの問題をめぐって読者にあてた手紙



● 8 月 刊 行

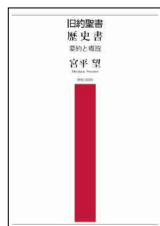
旧約聖書 歴史書

要約と概説

宮平望著

◆A5判・定価 2200 円

大好評のシリーズ第2弾(全4巻)。この巻はヨシュア記/士師記/ルツ記/サムエル記上/サムエル記下/列王記上/列王記下/歴代誌上/歴代誌下/エズラ記/ネヘミヤ記/エステル記を取り上げ、章ごとに的確な解説を施す。



● 8 月 刊 行

初期キリスト教の世界

松本宣郎著

◆四六判・定価 3300 円

ローマ史と心性史の視点から初期キリスト教史研究を拡大してきた著者の11の論考を収録。初代教徒の心性、職業労働観、教会の営みなど、当時のキリスト教をめぐる多岐にわたる論点浮かび上がってくる。



勝田茅生著

物語とロゴセラピー

〔仮題〕

「いかなる人にもミッションが与えられている」というフランクルの創始したロゴセラピーの本質的なメッセージを、民話や寓話を例にとりながら分かりやすく説き明かす。著者はドイツで長年にわたりロゴセラピストとして活躍してきた実践家。

小B6判・予価2000円

バーナード・アンダーソン著／高柳富夫訳

旧約聖書

一九五七年の初版以来五度に渡る改訂を重ね、今日も旧約入門・概説書として絶大な信頼を得ている名著。著者の流麗な筆致は、歴史的研究・考古学的調査、文学批評、聖書神学をひとつの「物語」に編み込み、読者を巨大大で複雑多様な旧約の世界に引き込む。

A5判・予価8500円

マシュー・ホケノス著／穂田信子訳

マルティン・ニーメラー

ヒトラーに逆らった牧師

〔仮題〕

アメリカ人教会史家が冷静な筆致で著した最新の評伝。第一次大戦ではUボートの艦長として戦い、牧師に転身した後もなおナチヨナリストで、当初はナチに共鳴したが、やがて批判に転じ、戦時下は強制収容所に囚われ、戦後はエキスマニカルな場で活躍した激動の生涯。

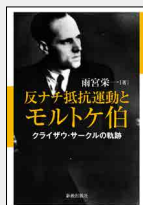
四六判・予価3500円

● 10月に出た本と雑誌

反ナチ抵抗運動とモルトケ伯

雨宮榮一著

クライザウ・サークルの軌跡

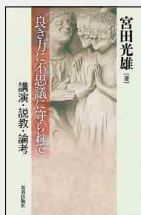


「クライザウ・サークル」と呼ばれる反ナチ・グループの中心人物としてゲシュタポに逮捕され刑死した法律家モルトケ伯の評伝。彼が反ナチの思想と行動に至るプロセスを丹念に追う。著者の遺作。

◆四六判・定価3850円

良き力に不思議に守られて

宮田光雄著 講演・説教・論考



単行本未収録の珠玉の説教5編のほか、民話によって神と出会う可能性を考察した「メルヘンの森で神と出会う」、神表現の極限を追求した美術家バーネット・ニューマンを巡る論考など7編を収録。

◆小B6判・定価1540円

福音と世界

11月号

ヘイト／反ヘイト
何が「われわれ」をつくるのか

◆定価660円

寄稿者：中村一成、斉藤小百合、李明生、大久保正禎、崔江以子／工藤万里江／好評連載 山下壮起、C・J・サンダース&A・ヤーパー、山口陽一、山崎ランサム和彦、田崎英明、村澤真保呂、勝村弘也、有住航

●子どもと一緒に何を見るのか。これは非常に難しい問題です。『テキサス・チーンソー』や『死霊のはらわた』について語り合いたいのですが、いまはまだその時期ではないでしょう。かといって、親のほうが不快にならないような映像コンテンツは、意外と少ない。迷った末に選んだのが、わたし自身が幼い頃に見たアニメ『世界名作劇場 ロミオの青い空』でした。原作は、ナチスの暴政と闘い、迫害から逃れてスイスに亡命した作家リザ・テツナーの『黒い兄弟』。時は一九世紀、スイスとイタリアの国境地帯の農村に暮らす少年ロミオが、借金のため大都市ミラノに売られ煙突掃除夫として働くことになるという大筋は共通ですが、アニメ版では、盟友アルフレドとの友情や、かれらが結成する同盟「黒い兄弟」とそれに対立する「狼団」との確執などにより焦点が当たっています。とはいえ、わたしが同作を見たのは三〇年近く前のこと。はっきり記憶していたのは物悲しいテーマ曲くらいでしたが、あらためて見てみると、キリスト教会と伝統的な祭りが共存する村の風景、産業革命のなかでの児童労働者の過酷な状況など、細部まで目が離せません。では、幼少のわたしは同作に何を思ったのか。ひとつだけ覚えているのは、アルフレドの死で

す。とても悲しかったという感情とともに、横で一緒に見ていた母親が涙していたというおぼろげな記憶が残っています。「おとなも泣くことがあるんだ」、そのとき、はじめてそんなふう思ったのです。わたしもまた、再びこれを見ながら泣くのでしょうか。いまはそれよりも、膝の上で子どもを抱っこするだけで手一杯なのです。(堀)

●評判の『文にあたる』を読みました。著者の牟田都子さんは校正者。校正というなりわいの中から考えたこと、感じたことを静かに誠実に綴った好エッセイ集です。著者が駆け出しのころ「頼まれるとうれしかったのが赤字照合の作業」と書いてあつて驚きました。これは赤字が次の校正に反映されているかどうかの点検です。私は、原稿とゲラのテラシと並んで赤字照合が苦痛で仕方ありませんでした。でも著者は、他の校正者がどんな校正をし、著者や編集者がそれをどう取捨したか「三者三様の思考の軌跡を見ることができる。この人はほんとうに校正が上手い、と唸るようなゲラに出会うと、休憩時間を使ってノートを取りました」と言うのです！ 他方我が身を省みれば、楽をする省力化の工夫ばかり考えていたような……。本作りの初心に立ち返る読書となりました。(小林)

福音と世界

2022年
12

A5判・80頁・定価660円・送料70円
年間予約購読料(送料共) 8760円

特集・地方・地域から見た日本の現在

下関から世界を愛で包囲していく——中井淳
地方自治・民主主義の「危機と希望」のリアル
——山形県新庄市の市民運動の経験から

あとから来る者のために——宝塚宗教師・
市民平和会議の活動を通して——福井稔

川と人間の相克と共生——岩村義雄
ミニシラリズム——

地域住民による自主統治——松田舞
地方のキリスト教会・教区の現状と課題
——日下部遣志

【書評】

内田樹『レヴィナスの時間論』……島菌進

【好評連載】

- ◆フッド・スピリチュアリティ 6 ……山下壮起
- ◆教会におけるマイクロレクション 8 ……サンダース・ヤーバー
- ◆「日本的キリスト教」を読む 11 ……山口陽一
- ◆新約釈義 ルカ福音書 12 ……山崎ランサム和彦
- ◆間隙を思考する 非同時代性のために 21 ……田崎英明
- ◆古代イスラエル文学史序説 22 ……勝村弘也
- ◆霊性のエゴロジーあるいはマリヤリア 23 村澤眞保呂
- ◆福音のフラグメント 23 ……有住航